



in 沖繩
いがさん
かわら版



～ 沖縄のみなさんに 心つなげて ～

4月6日 新基地建設反対名護共同センターへ。

高江から辺野古、そしてオール沖縄へ至る戦いの歴史や、世界的にも貴重な辺野古の海についてマン・ツー・マンで講義をうける。「和解」となって国土交通相による「辺野古埋め立て承認取り消しの執行停止」を国が取り下げた、翁長知事が出した埋め立て承認取り消しの効力が復活し、国は工事を進める法的根拠を失い工事が止まっている。本当にうれしい。またこれからの新しい戦いになると熱く語られました。また、三重県で「埋め立てケーソンの問題」に取り組んでいることに本当に力付けられたとおっしゃいました。差し入れとカンパを。

辺野古対岸の瀬嵩の高台に案内していただく。近づくとも基地の方からは、続けて「ボン！・・・ボン！・・・」と音が聞こえます。演習だけでなく、不発弾処理と言って、使わないまま使用期限？が過ぎてくるものを処理するために爆発させているということです。なんと、これが兵器産業と軍隊の構図です。

大浦湾を挟んで見下ろすと、記録映画で見たような平和丸やカヌー、海保の姿はありませんでしたが、ブイやフロート、オイルフェンスがオキナワの美しい海には異様でした。

あまりにも有名なシュワブゲート前に行くと、閑散としています。第一テントへご挨拶と差し入れに向うと、今日は、北中城村瑞慶覧のキャンプフォスター・石平ゲートで「基地の県内移設に反対する県民会議」の緊急抗議集会があり、みなさんそちらへ向かっているとのこと。慌ててそちらへ向かい、一時間半かかって間に合いました。

27℃にもなる炎天下に熱い思いの700人が集まっています。

嘉陽県会議員や比嘉県会議員と一緒に一番前に座り込みました。芥川賞作家の目取真俊さんが米海兵隊に長時間拘束されたことや、戦後から続く米軍による人権侵害に対して抗議の声を上げたのです。

沖縄平和運動センターの山城博治議長は、米軍司令官の謝罪を要求、「目取真さんへの弾圧は県民140万人への弾圧だ。新基地建設の阻止に向けて私たちはめげない。団結して沖縄の歴史を変えていこう」と訴えました。目取真さんも参加していて「8時間も米軍基地に拘束されるのは許されない。基地の中に連れ込まれて監禁状態になると中の情報を外部はつかめない。治外法権が金網の向こうにある。日本の警察を差し置いて米軍が直接沖縄に対して弾圧している。私たちを弾圧することは許さない。」と話し、へり基地反対協議会の仲村さんは「米軍に残された道は基地の撤去しかない。今回の集会を私たちの声を世界中に広げていく一つの機会としよう」と、新婦人の女性も「またまた、女性が米兵に暴行されるということが起こった。子どもや女性がつらい思いをするそんなことは終わりにしよう。」と続けました。

キャンプ瑞慶覧には在沖米四軍調整官事務所があり、司令部があります。

基地に向かって隣の人と腕を組み、体を左右に揺らしながら「沖縄を返せ」を合唱。すぐ目の前には、白いマスクと黒のサングラスをかけた県警機動隊と米軍警備員がずらりと並び、監視の目を向けていました。

集会も終わりに近いころ「まもなく規制します」と機動隊の指揮官が拡声器で通告。隊員が私たちの間に入ってきました。指揮官が振り下ろした白い棒を合図に、排除が一斉に始まりました。もみくちゃになり現場は一時騒然と。数名が道路の真ん中に寝転んで、ゲート前国道の2車線がふさがり、一般車両の渋滞の列ができました。その中を迷彩服姿の米軍関係者2人を載せた白い車が通り抜けていきました。まさしくリアル！！

こういう戦いの中で、オール沖縄があることを暑さと熱さの中で強く認識。400キロをレンタカーで走りましたが、どこを走ってもナビには米軍基地のグレーの部分が現れ、オキナワの今をまざまざと体験。ひめゆりの塔、梯梧の塔、健児の塔、平和の礎、三重の慰霊塔などに手を合わせ、「二度と再び戦火にまみえることの無いように。米軍基地は国外へ」と強く心に誓いました。

山本りか

各地で報告会など



4・17 議会報告会



4・22 自主防災隊総会



4・17 高花平議会報告会



4・20 阿倉川駅議会報告



事務所看板リニューアル
戦争法廃止2000万署名
九州熊本地震カンパ

に取り組んでいます

ご協力を！！

困ったときは

